

女性経済人対談

株式会社トマト銀行 取締役 上岡 美保子×第64代理事長 鈴森 賢史



鈴森理事長：よろしくお願ひいたします。本日はトマト銀行社外取締役に就任されて感じられていることや、ジェットロ（JETRO・日本貿易振興機構）に永年勤められたご経験について聞かせていただきたいと存じます。

上岡取締役：私は1973年にジェットロに入り38年間勤め、最後の3年間（2009年～2011年）がストックホルム勤務でした。帰国後、就実大学から私が経験してきたことを学生に伝えてほしいという依頼があり今講義をしています。また、2013年6月からトマト銀行の中川会長に声をかけていただき社外取締役に就くことになりました。今でこそアベノミクスで女性の社会活躍が推進されていますが、2013年の段階ではまだありませんでしたし、社外取締役の義務化もまだまだ進んでいない段階でしたので、中川会長は先見の明がある方だと感じています。

鈴森理事長：先日地銀での女性の活躍が新聞に掲載されていました。

上岡取締役：トマト銀行には3名の女性支店長がいて、社員の3割が女性で女性が働きやすくなってきています。今後の日本の状況を見ると女性の力を活用できない企業は発展できないと思います。私も会社に貢献できるようがんばってまいります。

鈴森理事長：社内では当たり前だと考えていることが、社外から見るとそうでない場合があります。耳の痛いことを言われるのは嫌ですが、その意見を受け入れる会社のトップが今の社会には必要とされていますね。

上岡取締役：その通りです。勤めていたジェットロでは、当初はお客様へお茶を出し、コピーを行う庶務の仕事でした。貿易・投資相談の

電話にも最初のうちは「担当者が不在です」と答えていたのですが、少しずつ勉強して担当者が不在でも相談に乗れるようになりました。当時は日本の経済復興のため輸出促進が仕事の大きな部分でしたが、そのうち日本にばかりドルがたまり始め貿易の不均衡是正のため、ジェットロも輸出から輸入へ180度大転換を行いました。県内で50回以上個人輸入の仕方についてのセミナーを自分で考えて開催するなど輸入促進に努めました。

鈴森理事長：入社当初から転換期まで、たいへんな苦勞をされたんですね。

上岡取締役：大学で毎回話をするのですが「努力をすれば必ず誰かが見ている」ものです。事務職で就職した私がジェットロ岡山の所長になり、またストックホルム事務所所長になるなんて、就職当時は夢にも思っていませんでした。岡山事務所所長の時代には県内のいろいろな企業の方と一緒に仕事をしましたが、それが今の私の宝となっています。スウェーデンで働いたのも、今から考えるとこれからの日本を考える上で得難い経験となっています。

鈴森理事長：以前少しだけ上岡様のストックホルムのお話を聞いたことがありましたので、ぜひゆっくりお話しをお伺いしたいと楽しみにしていました。

上岡取締役：赴任してまず女性の会合に入ろうと探したのですが皆無でした。現地の方には「女性だけで集まってどうするの？」と反対に質問されました。男女平等の社会ではこれが普通の感覚なのだと気づきました。選挙にもクォータ制が取り入れられているので、男女同数が当選したら必ず半分は女性議員になります。投票率は国選でも地方選でも80%を超えています。

鈴森理事長：今の日本では考えられない政治への関心の高さですね。

上岡取締役：スウェーデンでは高い福祉が受けられますが、その分高負担です。だから、自分たちが払った税金の使われ方に国民が厳しい目を向けています。政府も情報開示に努めます。消費税は25%です。税の負担感について現地の方に聞くと「その分、高い福祉が受けれるのだから当然でしょ。」と答えが返ってきます。スウェーデンでは貯金をほとんどしませんし、する必要もないわけです。

鈴森理事長：日本との違いがたくさん見えてきました。日本人はお金を稼いで貯金しますが、北欧の方は高福祉を受ける為に働くんですね。

上岡取締役：高福祉を受ける為に働くことは当たり前という考えが浸透していますので、スウェーデンでは女性の労働力率は80%を超えています。専業主婦は原則いません。人口が960万人なので、働ける人が皆働かなければ国が立ち行きません。労働力を確保するために高齢者の雇用延長や女性の活用、移民の受入れ等の選択肢がありますが、グローバル化の中で他の国々にいろいろな前例があるので、日本も参考にしてください。

鈴森理事長：他の国や企業について情報を集めて、それを知識として持っているだけで大きな力になりますね。スウェーデンでの教育はどうなっているのでしょうか。



上岡取締役：日本と大きく違うのは、高校卒業後すぐに大学に入学せず、旅行したり、ボランティアをして自分がしたいことを見つけてから大学に入ります。大学受験はありません。数年働いてからまた大学に戻り新しい技術を身に付けて次の仕事に就く、という転職を発展的に繰り返します。学費も小学校から大学まで無料です。

鈴森理事長：大学と就職を行き来するスウェーデン独特のシステムがあるんですね。

上岡取締役：冬は午後3時には真っ暗になります。太陽の光を浴びることが健康上必須となりますので、夏に2カ月くらいの長期休暇を取って太陽の光を浴びに行く人が多いです。その点で言うと『晴れの国』と言われる岡山は本当に恵まれているといえます。

鈴森理事長：岡山の良さを海外に出て再確認されたようですが、他にも気づかれた点がありますでしょうか。

上岡取締役：食べ物は美味しいし、災害は少なく、気候も温暖で岡山は良い所ばかりです。海外では日本のどこから来たかよく聞かれましたが、その都度岡山はこんなに良いところと宣伝しました。ただ、岡山もこれだけ良いところがあるのに知名度が低いと感じました。世界に青年会議所があると伺っていますが、そういった会と交流はされるのですか。

鈴森理事長：海外都市の青年会議所と姉妹提携しているところもありますし、先日ドイツで世界中の青年会議所のメンバーが集まって会議があったので参加してきました。また、青年会議所という世界組織は国連とパートナーシップを結んでいますので、世界中の今抱えている課題に対しても取り組んでいます。けれど、私たちの根本は地域の為の活動なので、世界中の問題にも目を向けて、地域の活動を中心に行っています。



上岡取締役：世界を見ると日本はこれからもっと若い人が頑張らなくてはいけない状況です。その一番の担い手が青年会議所の皆様です。女性の活躍もますます重要になってきます。

鈴森理事長：岡山青年会議所にも女性会員はいますが少人数で、しかも、役職に就く女性会員は5年に1人出るか出ないかなので、女性の活躍は私たちが取組むべき重要な課題の一つです。

上岡取締役：トマト銀行では中期経営計画で預金残高1兆円を目標に掲げていましたが、半年の期間を残して達成することができました。銀行業務も、預金や融資だけでなく、保険や証券など多様な金融商品の販売やコンサルティング業務など多様化しています。そういう中で女性が持てる力を発揮して活躍できる組織づくりを男性と共に今考えているところです。

鈴森理事長：全ての組織は人で成り立っていますから箱やシステムだけあっても十分な成果は生まれません。女性会員の増強も含め、これからも人にこだわって様々なことに取り組んで参ります。本日はどうもありがとうございました。